

# ムギ類主要品種の特性と秋作成功のポイント

雪印種苗(株) 宮崎試験農場

岩田 康 男



「スーパーハヤテ 隼」の草姿

## 1 はじめに

飼料用ムギにはエンバク、ライコムギ、オオムギ、ライムギなどがあります。これらは作物間の特性に大きく違いがあり、播種時期、利用方法、適応地域が様々に異なります。その上、品種間にも早晚性、耐倒伏性、耐病性、耐雪性の強弱などの差があります。ですから、これらの特性を理解して、うまく利用することが秋作成功のポイントです。今回は、弊社のムギ類品種の特性とその使い分けについて紹介いたします。

## 2 夏播き年内どり

ムギの作付けの1つにトウモロコシ収穫後、播種を行い、年内に収穫する、いわゆる夏播き年内どり利用があります(表1)。この夏播き年内どりは、イタリアンライグラスとムギの混播栽培にも利用でき、年内にムギを、翌春にイタリアンライグラスを収穫することにより、播種回数を減らし省力化が図れます。弊社では、この夏播き年内どり用のムギとして、極早生エンバク「スーパーハヤテ 隼」と「サビツヨシ」の2品種を販売しております。まず、この2品種の特性と使い分けか

表1 夏播き年内どりの品種別播種適期

播 種 期		スーパーハヤテ隼	サビツヨシ	N社S品種
西南暖地	関 東			
8月25日	8月20日	▲	●	▲
9月5日	8月25日	●	●	●
9月15日	9月5日	●	●	×
9月25日	9月10日	●	▲	×

注) ●:最適, ●:適, ▲:可, ×:不適

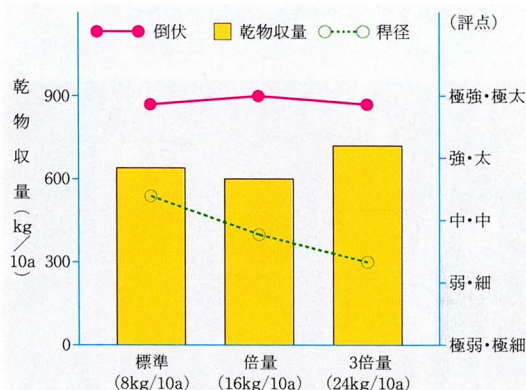


図1 「スーパーハヤテ隼」の播種量と倒伏の関係  
 <雪印種苗・宮崎試験農場>

ら紹介いたします。

### 「スーパーハヤテ 隼」

「スーパーハヤテ 隼」はハヤテよりも3~5日程度出穂が早く、また、夏播きでの出穂も極めて安定しているため、従来の極早生品種よりも播種適期間が長く、栽培しやすい品種です。標題写真に見られるように、直立型の草姿で、栽培期間が短くても草丈が高く、収量性に大変優れた品種です。図1は密植条件における耐倒伏性を検定した結果です。この結果から、耐倒伏性に優れていることも分かります。

播種量: 単播 6~7 kg/10a

### 「サビツヨシ」

エンバクの重要病害の一つに冠さび病があります。この病気は夏播きで発生することが多く、10月中旬ごろから発生し、本病に弱い品種では、ひどい場合は枯死に至り、極めて減収となってしまいます(図2)。弊社の極早生エンバク「サビツヨシ」はこの冠さび病に完全に抵抗性を示す品種

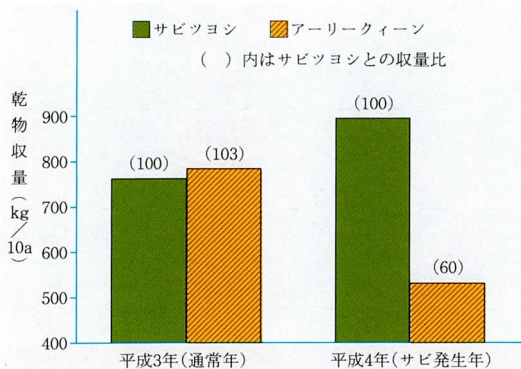


図2 サビツヨシの安定した収量性  
〈雪印種苗・宮崎試験農場〉



写真1 冠さび病比較 (左：他社, 右：サビツヨシ)

(写真1)で、本病の激発地域でも安定した生産が可能です。

播種量：単播 6～8 kg/10a

また、冠さび病は特に早播きした場合に多発する傾向にあり、西南暖地では8月25～30日前後、

関東地方では8月20～25日前後の播種が最も危険な時期です。ですから、この時期に「サビツヨシ」を播種すると効果的です。それ以後の播種には、9月中旬(西南暖地)まで播種できる「スーパーハヤテ 隼」が適しています。

また、この2品種はともにイタリアンライグラスとの混播栽培に適しており、「タチワセ」や「タチマサリ」との混播に最適です。

播種量：イタリアン3 kg  
 +エンバク3～4 kg/10a

### 3 秋播き翌春どり

ムギの代表的な作付けに秋播き翌春どり利用があります。翌春の圃場の耕起準備や夏作物を決めるうえで秋播きムギ類の品種選定は特に重要です(表2参照)。

#### 1) サイレージ利用

サイレージ利用では、極早生エンバク「スーパーハヤテ 隼」、[サビツヨシ]、ライコムギ「ライコッコ」、中生エンバク「ニューオールマイティ」、オオムギ「ワセドリ」などがあります。

また、東北地方のように積雪期間が3か月以上の地域では、雪腐病に強いライムギ「春香」や「春一番」が適しています。特に豪雪地帯では紅色雪腐病抵抗性極強の「春香」が最適です。

#### 「ライコッコ」

極早生ライコムギで、耐寒性に優れ、太茎で倒伏に極強です。乾物収量が1.3t/10aと4月に収穫できるムギの中で最も多収です。出穂から登熟にいたる期間が長く、刈取り適期幅が長いのも特徴の一つで、イタリアンライグラスと混播することによりイタリアンライグラスの倒伏防止効果(写真2)や冬枯れ防止効果もあります。

表2 秋播きムギ品種の出穂期一覧

草種名	品 種 名	主な利用法	播 種 期	出 穂 期								乾物収量 (t/10a)	
				西 南 暖 地				関 東 地 方					
				4/1	4/10	4/20	5/1	5/10	4/20	5/1	5/10		5/20
エンバク	スーパーハヤテ	サ	10月下旬～11月中旬	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1.1
	サビツヨシ	サ	10月下旬～11月中旬	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1.0
	ハイオーツ	乾・ロ	10月下旬～11月中旬	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.9
	ニューオールマイティ	サ・ロ・青	10月下旬～11月中旬	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1.5
ライコムギ	ライコッコ	サ・青	10月下旬～11月中旬	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1.3
ライムギ	春 一 番	サ・乾・青	10月下旬～11月中旬	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.6
オオムギ	ワセドリ	サ・乾	10月下旬～11月中旬	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.7

注) サ：サイレージ, 青：青刈, 乾：乾草, ロ：ロールベール(年次標高などで多少変わります)



写真2 ライコッコのイタリアンライグラス倒伏防止効果  
(左：イタリアン単播 右：イタリアン+ライコッコ混播)



写真3 紅色雪腐病抵抗性に強い「春香」  
(左：春香 右：他社)

播種量：単播 7 kg/10 a  
 イタリアン混播 イタリアン 3 kg  
 +ライコッコ 4 kg/10 a

### 「ワセドリ」

オオムギ「ワセドリ」は栄養価と嗜好性が良く、細茎で乾きやすく水分調整がしやすいのが特徴です(イタリアンライグラスとの混播にも有効)。特に嗜好性を重視する場合にお勧めです。また、サイレージ利用、乾草利用に適していますが、耐湿性はそれほど強くないので水はけの悪い水田転換畑での利用は避けるのがよいでしょう。

播種量：単播 8 kg/10 a  
 イタリアン混播 イタリアン 3 kg  
 +ワセドリ 5～7 kg/10 a

### 「春一番」

早生ライムギで耐雪性に優れ、積雪地帯にも適しています。イタリアンライグラスとの混播でイタリアンライグラスの冬枯れ防止効果があります。サイレージ利用のほか、乾草・ロールベール利用、青刈り利用にも適しています。

播種量：単播 5～8 kg/10 a  
 イタリアン混播 イタリアン 3 kg  
 +春一番 3 kg

### 「春香」

「春一番」より出穂が1～2週間遅い晩生のライムギです(表3)。草丈は130 cm程度で分げつが多く、多収のライムギ品種です。紅色雪腐病抵抗性に極強で(写真3)、特に東北地方の豪雪地帯に適しています。

播種量：8 kg/10 a

### 2) 乾草利用

乾草利用では、乾きやすさが重要な要因となります。乾きやすさと嗜好性の面からはイタリアンライグラスが最も優れており、この作付けが一般的ですが、1回刈りで、直ちにトウモロコシにつなげる場合は、イタリアンライグラスに乾きやすいムギ類を混播して、収量を増やすことが効果的です。この混播利用に適した品種にはエンバク「ヘイオーツ」、オオムギ「ワセドリ」などがあります。霜がきつい地域では耐寒性の優れたライムギ「春一番」が適しています。年間を通じて乾草・ロールベール体系を考えた場合は、イタリアンライグラスの再生草を収穫後、「ヘイスーダン」や「ウルトラソルゴー」などにつなげるとよいでしょう。

### 「ヘイオーツ」

細茎で乾きやすく、乾草・ロールベール利用に適しています。畑の条件を選ばないためオオムギに比べ栽培しやすく、収量的にもメリットがあります。イタリアンライグラスとの混播による乾草生産に最適です。

表3 「春香」の播種適期と出穂期

地域	播種適期	出穂期			
		5/1	5/10	5/20	5/30
上信越	9月下旬～10月中旬	■	■		
東北南部	10月中旬～10月下旬		■	■	
東北北部	9月下旬～10月中旬			■	■

播種量：単播 4 kg/10 a  
 イタリアン混播 イタリアン 3 kg  
 +ヘイオーツ 2 kg/10 a

### 3) 青刈り利用

青刈り利用はサイレージ利用と違い、出穂させて水分を低下させなくてもよいので、各種ムギとも栄養価に優れた止葉期まで刈取ることがポイントです。「ライコッコ」や「春一番」は耐寒性に優れ、早い時期から生長を開始しますので、早春の青刈り確保するうえで適した品種といえます。また、乾物多収を狙う場合は「ニューオールマイティ」がよいでしょう。

### 4) まとめ

以上のことから、播種期と用途別にまとめたものが表4です。

表4 播種期、用途別適品種一覧表

利 用 用 途	早晩性	播 種 期		
		夏 播 利 用	秋 播 利 用	春 播 利 用
サイレージ利用	早生	スーパーハヤテ隼(混) サビツヨシ(混)	ライコッコ(混) ニューオールマイティ	スーパーハヤテ隼
	↓ 晩生			
乾草・ロールベール利用	早生	ワセドリ(混) ヘイオーツ(混)	ワセドリ(混) 春一番(混) ヘイオーツ(混)	ヘイオーツ
	↓ 晩生			
青刈り利用	早生	スーパーハヤテ隼(混) サビツヨシ(混)	ライコッコ(混) ニューオールマイティ	スーパーハヤテ隼
	↓ 晩生			

注) (混)：単播利用もしくはイタリアン混播利用。  
 積雪地帯の秋播ムギは「春香」が適しています。

## 4 新品種「ニューオールマイティ(系統名A S-11)」の特性

中生エンバクには「前進」より収量性と耐倒伏性が優れる「オールマイティ」を販売してきましたが、更に耐病性、耐倒伏性、収量性を強化した秋播きエンバク「ニューオールマイティ」を今秋から新発売致します。主な利用用途はサイレージと青刈りですが、その優れた耐倒伏性からロールベールにも利用できます。

### 1) 草姿

ニューオールマイティは直立型で(写真4)、草丈が145cmと大型のエンバクで、広葉で太茎と非常にボリューム感に優れた品種です。

### 2) 早晩性

ニューオールマイティは中生に属し、11月播きでは、西南暖地で5月上旬～中旬、関東地方で5月中旬～下旬にかけて出穂し、オールマイティと比較すると5～10日程度早く出穂します。

### 3) 耐病性

一般に冠さび病は、秋播きした場合に5月下旬ころから発生することがあります。ニューオールマイティは、この冠さび病の抵抗性が極強で、この品種の優れた特性の一つです。

また、水はけの悪い畑では、葉が赤くなるレッドリーフ病という病気が発生しますが(写真5)、



写真4 ニューオールマイティの草姿



写真5 エンバクレッドリーフ病

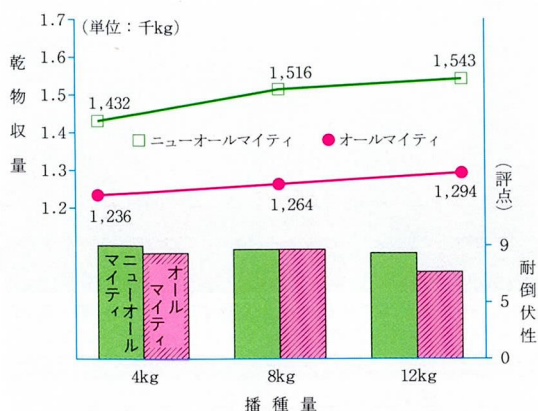


図3 ニューオールマイティの耐倒伏性  
(図中の数値は乾物収量(kg/10a)を示す)  
〈平成6年 宮崎試験農場〉

ニューオールマイティはこのレッドリーフ病にも強く、水田転換畑においても安心して栽培ができます。

#### 4) 耐倒伏性

図3は播種量(散播)を変えた場合の耐倒伏性と乾物収量を比較したものです。オールマイティが密植区(播種量12kg/10a)で若干の倒伏が発生したのに対し、ニューオールマイティは密植条件においても倒伏が発生せず、耐倒伏性に極めて優れていることが分かります。また、播種量を増加するにつれ乾物収量も増加しますが、播種量が8kg/10aを超えるくらいから、収量の増加が緩やかとなり、適正播種量は散播で8kg/10a(条播で6kg/10a)と判断されます。

#### 5) 乾物収量

図4は宮崎試験農場で播種期ごとの乾物収量を

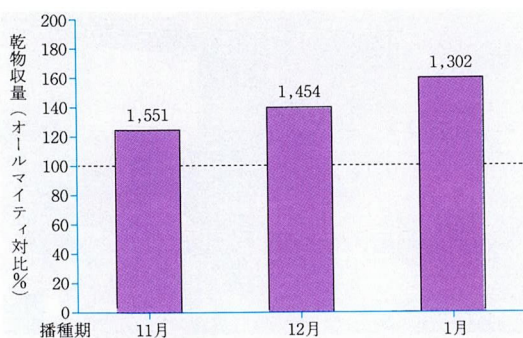


図4 ニューオールマイティの播種期別の乾物収量  
(図中の数値は乾物収量(kg/10a)を示す)  
〈平成6年 宮崎試験農場〉

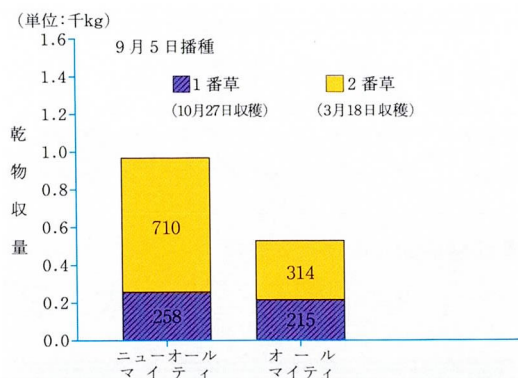


図5 ニューオールマイティの多刈り収量  
(図中の数値は乾物収量(kg/10a)を示す)  
〈平成5年 宮崎試験農場〉

調査した結果です。播種適期である11月播きと比べ播種が遅れるほど乾物収量は低下しますが、その低下の幅はオールマイティより少なく、播種適期間の長い品種であることが分かります。

#### 6) 再生力

エンバクも出穂する前に刈取れば再生が期待できます。ニューオールマイティは刈取り後の再生も早く、再生収量も従来の品種より多収で(図5)、青刈り利用で多刈りを行う上で有利です。

#### 7) 播種適期と刈取り適期

播種適期は、西南暖地では10月下旬~11月下旬、関東地方では10月中旬~11月中旬で、この時期の播種が乾物収量最多となります。適期に播種を行なった場合、5月の中旬ころ出穂期となります。サイレージ利用の場合はそれから約2週間後、水分が低下してくる乳熟期が刈取り適期です。青刈り利用は栄養価の高い止葉期までに刈取るとよいでしょう。ロールベール利用でモアコンディショナーを使用し、十分な予乾が行える場合は栄養価の高い出穂期を目安に収穫してください。

#### おわりに

ムギ類の品種の特性使い分けについてかいつまんで紹介してきましたが、ムギはサイレージ、乾草・ロールベール、青刈り、緑肥利用など、様々な用途に用いることができます。それぞれの品種特性をうまく使い、よりよい自給飼料生産のお役に立てば幸いです。